

島原半島ジオパークリーフレット：人々の暮らしと戦い

島原半島に人々が住み始めて以来、彼らの間には対立があった。このルートは半島の北にある遺跡の道をたどり、歴史と地理のつながりを示している。

山田城址公園

半島の肥沃な農地の支配をめぐる争いは、1638 年の島原の乱まで続いていたが、1372 年に強大な勢力を持つ大友氏が、半島を制圧するために川の流れによってできた丘を利用して城を築いた。

守山大塚古墳

「古墳(kofun)」と呼ばれる巨大な墓がおよそ 300 年から 540 年の間に日本で作られていた。これは長崎県における最大の古墳のひとつで考古学的に重要な価値を持つものである。地元の人々は古墳の上に墓地を築いてきた。

雲仙市歴史資料館／国見展示館

かつての中学校が、島原半島で発掘された人口遺物の展示のための資料館となっている。

沖田畷の戦いの場

戦国時代（1467 年 - 1568 年）には日本中の武家が地域の支配権を求めて戦った。1584 年には有馬氏と島津氏の連合軍がわずか 8 千の兵で、龍造寺氏の 5 万の強力な軍勢を破った。有馬氏と島津氏は勝利へと有利に展開するように丘状の地形をうまく利用した。